



プロバイダー

ISE-PICがID情報を、サービスをサブスクライブするコンシューマ（サブスクライバ）に提供できるようにするため、最初にISE-PICプローブを設定する必要があります。このプローブはIDプロバイダーに接続します。

次の表に、ISE-PICから使用可能なプロバイダーとプローブのすべてのタイプについて詳しく説明します。この章の残りの部分では、Active Directory以外で使用できるすべてのタイプについて説明していますが、Active Directoryで使用できるタイプについては、専用の章で詳しく説明します。詳細については、[プローブおよびプロバイダーとしてのActive Directory](#)を参照してください。

定義できるプロバイダータイプを次に示します。

表 1:プロバイダータイプ

プロバイダータイプ (プローブ)	説明	送信元システム (プロバイダー)	テクノロジー	収集されるユーザ ID 情報	ドキュメントリンク
Active Directory (AD)	<p>ユーザ情報の取得元である安全性が高く正確で最も一般的なソース。</p> <p>プローブとして機能する場合、AD は WMI テクノロジーを使用して認証済みユーザ ID を送信します。</p> <p>また AD 自体が、プローブではなく、その他のプローブがユーザデータを取得するソース システム (プロバイダー) として機能します。</p>	Active Directory ドメイン コントローラ	WMI	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザ名 (User name) • IP アドレス • ドメイン 	プローブおよびプロバイダーとしての Active Directory
エージェント (Agents)	<p>Active Directory ドメイン コントローラまたはメンバー サーバにインストールされているネイティブ 32 ビット アプリケーション。エージェント プローブは、ユーザ ID 情報に Active Directory を使用する場合の簡単で効率的なソリューションです。</p>		ドメイン コントローラまたはメンバー サーバにインストールされているエージェント。	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザ名 (User name) • IP アドレス • ドメイン 	<p>Active Directory エージェント (4 ページ)</p> <p>(注) Active Directory エージェントは、Windows Server 2008 以降でのみサポートされます。</p>

プロバイダータイプ (プローブ)	説明	送信元システム (プロバイダー)	テクノロジー	収集されるユーザ ID 情報	ドキュメントリンク
エンドポイント (Endpoint)	設定されているその他のプローブに加えて、ユーザが接続しているかどうかを確認するため、常にバックグラウンドで実行されます。		WMI	ユーザが接続しているかどうか	エンドポイントプローブ (43 ページ)
SPAN	ネットワークトラフィックをリッスンし、Active Directory データに基づいてユーザ ID 情報を抽出するため、ネットワークスイッチに導入されています。		SPAN (スイッチにインストール) と Kerberos メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ユーザ名 (User name) IP アドレス ドメイン 	SPAN (15 ページ)
API プロバイダー	ISE-PIC が提供する RESTful API サービスを使用して、RESTful API クライアントと通信するようにプログラミングされている任意のシステムから、ユーザ ID 情報を収集します。	REST API クライアントと通信するようにプログラミングされている任意のシステム。	RESTful API。JSON 形式でサブスクライバに送信されるユーザ ID。	<ul style="list-style-type: none"> ユーザ名 (User name) IP アドレス ポート範囲 (Port range) ドメイン (Domain) 	API プロバイダー (9 ページ)

プロバイダタイプ (プローブ)	説明	送信元システム (プロバイダー)	テクノロジー	収集されるユーザ ID 情報	ドキュメントリンク
Syslog	syslog メッセージを解析し、ユーザ ID (MAC アドレスを含む) を取得します。	<ul style="list-style-type: none"> 標準 syslog メッセージ プロバイダー DHCP サーバ 	syslog メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ユーザ名 (User name) IP アドレス MAC アドレス ドメイン 	syslog プロバイダー (17 ページ)

- [Active Directory エージェント \(4 ページ\)](#)
- [API プロバイダー \(9 ページ\)](#)
- [SPAN \(15 ページ\)](#)
- [syslog プロバイダー \(17 ページ\)](#)
- [パッシブ ID サービスのフィルタリング \(42 ページ\)](#)
- [エンドポイントプローブ \(43 ページ\)](#)

Active Directory エージェント

ISE-PICから、ネイティブ 32 ビットアプリケーション、ドメインコントローラ (DC) エージェントを、(設定に応じて) Active Directory (AD) ドメインコントローラ (DC) またはメンバーサーバ上の任意の場所にインストールし、AD からユーザ ID 情報を取得して、設定したサブスクリバにこれらの ID を送信します。エージェントプローブは、ユーザ ID 情報に Active Directory を使用する場合の簡単で効率的なソリューションです。エージェントは個別のドメインまたは AD ドメインにインストールできます。インストールされたエージェントは、1 分ごとに ISE-PIC にステータス更新情報を提供します。

エージェントは ISE-PIC が自動的にインストールおよび設定するか、またはユーザが手動でインストールすることができます。インストールが完了すると、次のようになります。

- エージェントとその関連ファイルはパス **Program Files/Cisco/Cisco ISE PassiveID Agent** にインストールされています。
- エージェントのロギングレベルを指定する **PICAgent.exe.config** という設定ファイルがインストールされます。この設定ファイル内でロギングレベルを手動で変更できます。
- **CiscoISEPICAgent.log** ファイルにはすべてのロギングメッセージが保存されます。
- **nodes.txt** ファイルには、展開内でエージェントが通信できるすべてのノードのリストが含まれています。エージェントはリストの最初のノードと通信します。このノードと通信できない場合、エージェントはリストのノード順序に従ってノードとの通信を試行します。

手動でのインストールの場合、このファイルを開き、ノード IP アドレスを入力する必要があります。（手動または自動での）インストールの完了後にこのファイルを変更するには、このファイルを手動で更新する必要があります。ファイルを開き、ノード IP アドレスを必要に応じて追加、変更、または削除します。

- Cisco ISE PassiveID Agent サービスはマシン上で稼働します。このサービスは [Windows サービス (Windows Services)] ダイアログボックスから管理できます。
- ISE-PIC は最大 100 個のドメインコントローラをサポートでき、それぞれのエージェントは最大 10 個のドメインコントローラをモニタできます。



(注) 100 個のドメインコントローラをモニタするには、10 個のエージェントを設定する必要があります。



(注) Active Directory エージェントは、Windows Server 2008 以降でのみサポートされます。

エージェントをインストールできない場合、パッシブ ID サービスには Active Directory プローブを使用します。詳細については、[プローブおよびプロバイダーとしての Active Directory](#) を参照してください。

Active Directory エージェントの自動インストールおよび展開

ユーザ ID についてドメインコントローラをモニタするようにエージェントプロバイダーを設定するときには、エージェントがメンバーサーバまたはドメインコントローラのいずれかにインストールされている必要があります。エージェントは ISE-PIC が自動的にインストールするか、またはユーザが手動でインストールすることができます。手動または自動でのインストール後に、インストールされたエージェントが、デフォルト WMI ではなく指定のドメインコントローラをモニタするように設定する必要があります。このプロセスでは、自動インストールを有効にし、ドメインコントローラをモニタするようにエージェントを設定する方法について説明します。

始める前に

- サーバ側からの関連 DNS サーバの逆引き参照を設定します。ISE-PIC の DNS サーバ設定要件の詳細については、[DNS サーバ](#) を参照してください。
- エージェント用に指定されたマシンで Microsoft .NET Framework がバージョン 4.0 以上に更新されていることを確認します。.NET フレームワークの詳細については、<https://www.microsoft.com/net/framework> を参照してください。
- AD 参加ポイントを作成し、1 つ以上のドメインコントローラを追加します。参加ポイントの作成の詳細については、[プローブおよびプロバイダーとしての Active Directory](#) を参照してください。

AD、エージェント、SPAN、およびsyslogプロローブでADユーザグループを使用します。ADグループの詳細については、[Active Directory ユーザグループの設定](#)を参照してください。

-
- ステップ 1 現在設定されているすべてのドメインコントローラ (DC) エージェントを表示し、既存のエージェントを編集、削除し、新しいエージェントを設定するには、[プロバイダー (Providers)] > [エージェント (Agents)] を選択します。
 - ステップ 2 新しいエージェントを追加するには、テーブルの上部で [追加 (Add)] をクリックします。既存のクライアントを編集または変更するには、テーブルでエージェントをオンにし、テーブル上部で [編集 (Edit)] をクリックします。
 - ステップ 3 新しいエージェントを作成し、この設定で指定するホストに自動的にインストールするには、[新規エージェントの展開 (Deploy New Agent)] を選択します。
 - ステップ 4 クライアントを正しく設定するため、すべての必須フィールドに入力します。詳細については、[Active Directory エージェントの設定 \(8 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ 5 [展開 (Deploy)] をクリックします。
設定で指定したドメインに基づいてエージェントが自動的にホストにインストールされ、設定が保存されます。エージェントは [エージェント (Agents)] テーブルに表示されます。これで、指定したドメインコントローラにこのエージェントを適用できます。これについては以降のステップで説明します。
 - ステップ 6 [プロバイダー (Providers)] > [Active Directory] を選択し、現在選択されているすべての参加ポイントを表示します。
 - ステップ 7 作成したエージェントを有効にする参加ポイントのリンクをクリックします。
 - ステップ 8 前提条件の一部として追加したドメインコントローラを使用するため、[パッシブ ID (Passive ID)] タブを選択します。
 - ステップ 9 作成したエージェントを使用してモニタするドメインコントローラをオンにし、[編集 (Edit)] をクリックします。
 - ステップ 10 表示されるダイアログボックスで、必須フィールドに値が入力されていることを確認し、[プロトコル (Protocol)] ドロップダウンから [エージェント (Agent)] を選択します。表示される [エージェント (Agent)] フィールドのドロップダウンリストから、作成したエージェントを選択します。エージェントのユーザ名およびパスワードのクレデンシャルを作成している場合は、このクレデンシャルを入力して [保存 (Save)] をクリックします。
ドメインコントローラに対してエージェントが有効になり、ダイアログボックスが閉じます。
-

Active Directory エージェントの手動インストールおよび展開

ユーザIDについてドメインコントローラをモニタするようにエージェントプロバイダーを設定するときには、エージェントがメンバーサーバまたはドメインコントローラのいずれかにインストールされている必要があります。エージェントはISE-PICが自動的にインストールするか、またはユーザが手動でインストールすることができます。手動または自動でのインストール後に、インストールされたエージェントが、デフォルト WMI ではなく指定のドメインコントローラをモニタするように設定する必要があります。このプロセスでは、エージェント

を手動でインストールし、ドメインコントローラをモニタするように設定する方法について説明します。

始める前に

- サーバ側からの関連 DNS サーバの逆引き参照を設定します。ISE-PIC の DNS サーバ設定要件の詳細については、[DNS サーバ](#)を参照してください。
- エージェント用に指定されたマシンで Microsoft .NET Framework がバージョン 4.0 以上に更新されていることを確認します。.NET フレームワークの詳細については、<https://www.microsoft.com/net/framework>を参照してください。
- AD 参加ポイントを作成し、1 つ以上のドメイン コントローラを追加します。参加ポイントの作成の詳細については、[プローブおよびプロバイダーとしての Active Directory](#)を参照してください。

AD、エージェント、SPAN、および syslog プローブで AD ユーザ グループを使用します。AD グループの詳細については、[Active Directory ユーザ グループの設定](#)を参照してください。

-
- ステップ 1** 現在設定されているすべてのドメインコントローラ (DC) エージェントを表示し、既存のエージェントを編集、削除し、新しいエージェントを設定するには、[**プロバイダー (Providers)**] > [**エージェント (Agents)**] を選択します。
- ステップ 2** [エージェントのダウンロード (Download Agent)] をクリックし、手動でインストールするための **picagent-installer.zip** ファイルをダウンロードします。
このファイルは Windows の標準ダウンロードフォルダにダウンロードされます。
- ステップ 3** ZIP ファイルを指定のホストマシンに保存してインストールを実行します。
- ステップ 4** ISE-PIC GUI で [**プロバイダー (Providers)**] > [**エージェント (Agents)**] をもう一度選択します。
- ステップ 5** 新しいエージェントを設定するには、テーブルの上部で [追加 (Add)] をクリックします。既存のクライアントを編集または変更するには、テーブルでエージェントをオンにし、テーブル上部で [編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 6** すでにホストマシンにインストールしているエージェントを設定するには、[既存のエージェントの登録 (Register Existing Agent)] を選択します。
- ステップ 7** クライアントを正しく設定するため、すべての必須フィールドに入力します。詳細については、[Active Directory エージェントの設定 \(8 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 8** [保存 (Save)] をクリックします。
エージェント設定が保存されます。エージェントは [エージェント (Agents)] テーブルに表示されます。これで、指定したドメイン コントローラにこのエージェントを適用できます。これについては以降のステップで説明します。
- ステップ 9** [**プロバイダー (Providers)**] > [**Active Directory**] を選択し、現在選択されているすべての参加ポイントを表示します。
- ステップ 10** 作成したエージェントを有効にする参加ポイントのリンクをクリックします。
- ステップ 11** 前提条件の一部として追加したドメイン コントローラを使用するため、[パッシブ ID (Passive ID)] タブを選択します。

- ステップ 12** 作成したエージェントを使用してモニタするドメインコントローラをオンにし、[編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 13** 表示されるダイアログボックスで、必須フィールドに値が入力されていることを確認し、[プロトコル (Protocol)] ドロップダウンから [エージェント (Agent)] を選択します。表示される [エージェント (Agent)] フィールドのドロップダウンリストから、作成したエージェントを選択します。エージェントのユーザ名およびパスワードのクレデンシャルを作成している場合は、このクレデンシャルを入力して [保存 (Save)] をクリックします。
ドメインコントローラに対してエージェントが有効になり、ダイアログボックスが閉じます。

エージェントのアンインストール

自動または手動でインストールされたエージェントは、Windows から直接 (手動で) 簡単にアンインストールできます。

- ステップ 1** [Windows] ダイアログで [プログラムと機能 (Programs and Features)] に移動します。
- ステップ 2** インストールされているプログラムのリストで [Cisco ISE PassiveID エージェント (Cisco ISE PassiveID Agent)] を見つけて選択します。
- ステップ 3** [アンインストール (Uninstall)] をクリックします。

Active Directory エージェントの設定

ISE-PIC が、さまざまなドメインコントローラ (DC) からユーザ ID 情報を取得し、その情報を ISE-PIC サブスクリイバに配信するために、ネットワーク内の指定されたホストにエージェントを自動的にインストールすることを許可します。

エージェントを作成および管理するには、[プロバイダー (Providers)] > [エージェント (Agents)] を選択します。 [Active Directory エージェントの自動インストールおよび展開 \(5 ページ\)](#) を参照してください。

[エージェント (Agents)] テーブルで現在のエージェントのステータスを確認します。[プロバイダー (Providers)] > [エージェント (Agents)] を選択します。

表 2: [エージェント (Agents)] テーブル

フィールド	説明
[名前 (Name)]	設定したエージェント名。
ホスト (Host)	エージェントがインストールされているホストの完全修飾ドメイン名。
モニタリング (Monitoring)	指定されたエージェントがモニタするドメインコントローラのカンマ区切りリストです。

表 3:新規エージェント (*Agents New*)

フィールド	説明
新規エージェントの展開 (Deploy New Agent) または既存のエージェントの登録 (Register Existing Agent)	<ul style="list-style-type: none"> 新規エージェントの展開 (Deploy New Agent) : 指定されたホストに新規エージェントをインストールします。 既存のエージェントの登録 (Register Existing Agent) : ホストにエージェントを手動でインストールし、ISE-PICがサービスを有効にできるようにするため、この画面でそのエージェントを設定します。
名前 (Name)	エージェントを容易に把握できる名前を入力します。
説明 (Description)	エージェントを容易に把握できる説明を入力します。
ホスト FQDN (Host FQDN)	エージェントがインストールされているホスト(既存のエージェントの登録の場合)またはインストールされるホスト(自動展開の場合)の完全修飾ドメイン名です。
ユーザ名 (User Name)	エージェントをインストールするホストにアクセスするためのユーザ名を入力します。ISE-PICは、これらのクレデンシャルを使用してエージェントをインストールします。
パスワード (Password)	エージェントをインストールするホストにアクセスするためのユーザパスワードを入力します。ISE-PICは、これらのクレデンシャルを使用してエージェントをインストールします。

API プロバイダー

Cisco ISE-PIC の API プロバイダー機能では、カスタマイズしたプログラムまたはターミナルサーバ (TS) エージェントから組み込み ISE-PICREST API サービスにユーザ ID 情報をプッシュできます。これにより、ネットワークからプログラミング可能なクライアントをカスタマイズして、任意のネットワーク アクセス制御 (NAC) システムから収集されたユーザ ID をこのサービスに送信するようになります。さらに Cisco ISE-PIC API プロバイダーにより、すべてのユーザの IP アドレスが同一であるが、各ユーザに固有のポートが割り当てられるネットワーク アプリケーション (Citrix サーバの TS-Agent など) と対話できます。

たとえば、Active Directory (AD) サーバに対して認証されたユーザの ID マッピングを提供する Citrix サーバで稼働するエージェントは、新しいユーザがログインまたはログオフするたびに、ユーザセッションを追加または削除する REST 要求を ISE-PIC に送信できます。ISE-PIC は、クライアントから送信されたユーザ ID 情報 (IP アドレス、割り当てられたポートなど) を取得し、事前に設定されているサブスクライバ (Cisco Firepower Management Center (FMC) など) に送信します。

ISE-PIC REST API フレームワークは、HTTPS プロトコルを介した REST サービスを実装し (クライアント証明書の検証は不要)、ユーザ ID 情報が JSON (JavaScript Object Notation) 形式で送信されます。JSON の詳細については、<http://www.json.org/> を参照してください。

ISE-PIC REST API サービスは、1 つのシステムに同時にログインしている複数のユーザを区別するため、ユーザ ID を解析し、その情報をポート範囲にマッピングします。ポートがユーザに割り当てられるたびに、API がメッセージを ISE-PIC に送信します。

REST API プロバイダーのフロー

カスタマイズしたクライアントを ISE-PIC のプロバイダーとして宣言し、そのカスタマイズしたプログラム (クライアント) が RESTful 要求を送信できるようにして、ISE-PIC からカスタマイズしたクライアントへのブリッジを設定している場合、ISE-PIC REST サービスは次のように機能します。

1. ISE-PIC はクライアント認証のために認証トークンを必要とします。通信開始時と、ISE-PIC から以前のトークンの期限が切れたことが通知されるたびに、クライアントマシンのカスタマイズしたプログラムから認証トークンを求める要求が送信されます。この要求への応答としてトークンが返されます。これによりクライアントと ISE-PIC サービス間の継続的な通信が可能になります。
2. ユーザがネットワークにログインすると、クライアントはユーザ ID 情報を取得し、API Add コマンドを使用してこの情報を ISE-PIC REST サービスに送信します。
3. ISE-PIC はユーザ ID 情報を受信してマッピングします。
4. ISE-PIC はマッピングされたユーザ ID 情報をサブスクライバに送信します。
5. 必要な場合は常に、カスタマイズされたマシンはユーザ情報削除要求を送信できます。このためには、Remove API コールを送信し、Add コールの送信時に応答として受信したユーザ ID を含めます。

ISE-PIC での REST API プロバイダーの操作

ISE-PIC で REST サービスをアクティブにするには、次の手順に従います。

1. クライアント側を設定します。詳細については、クライアント ユーザ マニュアルを参照してください。
2. DNS サーバを適切に設定していることを確認します。これには、ISE-PIC からのクライアントマシンの逆引きの設定も含まれます。ISE-PIC の DNS サーバ設定要件の詳細については、[DNS サーバ](#)を参照してください。

3. [パッシブ ID サービスの ISE-PIC REST サービスへのブリッジの設定 \(11 ページ\)](#) を参照してください。



(注) TS-Agent と連携するように API プロバイダーを設定するには、ISE-PIC からそのエージェントへのブリッジの作成時に TS-Agent 情報を追加します。その後、TS-Agent のマニュアルで API コールの送信について確認してください。

4. 認証トークンを生成し、追加要求と削除要求を API サービスに送信します。[#unique_53](#)。

パッシブ ID サービスの ISE-PIC REST サービスへのブリッジの設定

ISE-PIC REST API サービスが特定のクライアントから情報を受信できるようにするには、まず ISE-PIC でその特定のクライアントを定義する必要があります。異なる IP アドレスを使用して複数の REST API クライアントを定義できます。

始める前に

- DNS サーバを適切に設定していることを確認します。これには、ISE-PIC からのクライアント マシンの逆引きの設定も含まれます。ISE-PIC の DNS サーバ設定要件の詳細については、[DNS サーバ](#)を参照してください。

- ステップ 1** 現在設定されているすべてのクライアントを表示し、既存のクライアントを編集、削除し、新しいクライアントを設定するには、**[プロバイダー (Providers)] > [API プロバイダー (API Providers)]** を選択します。
[API プロバイダー (API Providers)] テーブルが表示されます。このテーブルには既存の各クライアントのステータス情報が含まれています。
- ステップ 2** 新しいクライアントを追加するには、テーブルの上部で **[追加 (Add)]** をクリックします。既存のクライアントを編集または変更するには、テーブルでクライアントをオンにし、テーブル上部で **[編集 (Edit)]** をクリックします。
- ステップ 3** クライアントを正しく設定するため、すべての必須フィールドに入力します。詳細については、[API プロバイダーの設定 \(12 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 4** **[送信 (Submit)]** をクリックします。
クライアント設定が保存され、更新された [API プロバイダー (API Providers)] テーブルが画面に表示されます。これで、クライアントは ISE-PIC REST サービスにポストを送信できるようになりました。

次のタスク

認証トークンとユーザ ID を ISE-PIC REST サービスに送信するように、カスタマイズしたクライアントをセットアップします。[ISE-PIC REST サービスへの API コールの送信 \(12 ページ\)](#) を参照してください。

ISE-PIC REST サービスへの API コールの送信

始める前に

[パッシブ ID サービスの ISE-PIC REST サービスへのブリッジの設定 \(11 ページ\)](#)

-
- ステップ 1** Cisco ISE URL をブラウザのアドレス バーに入力します (たとえば `https://<ise hostname or ip address>/admin/`)。
- ステップ 2** ISE GUI の [APIプロバイダー (API Providers)] 画面で指定および設定したユーザ名とパスワードを入力します。ISE-PIC詳細については、[パッシブ ID サービスの ISE-PIC REST サービスへのブリッジの設定 \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3** Enter キーを押します。
- ステップ 4** ターゲット ノードの [URL アドレス (URL Address)] フィールドに API コールを入力します。
- ステップ 5** [送信 (Send)] をクリックして API コールを発行します。
-

次のタスク

さまざまな API コールとそのスキーマおよび結果の詳細については、[API コール \(13 ページ\)](#) を参照してください。

API プロバイダーの設定

[プロバイダー (Providers)] > [API プロバイダー (Providers)] を選択して、パッシブ ID サービスの新しい REST API クライアントを設定します。



- (注) 次のようにリクエスト コールを使用して完全な API 定義とオブジェクト スキーマを取得できます。
- 完全な API の指定 (wadl) : `https://YOUR_ISE:9094/application.wadl`
 - API モデルとオブジェクト スキーマ : `https://YOUR_ISE:9094/application.wadl/xsd0.xsd`

表 4: API プロバイダーの設定

フィールド	説明
[名前 (Name)]	このクライアントを他のクライアントから容易に区別できる一意の名前を入力します。
説明 (Description)	このクライアントのわかりやすい説明を入力します。

フィールド	説明
ステータス	設定完了後すぐにクライアントが REST サービスとやりとりできるようにするには、[有効 (Enabled)] を選択します。
ホスト/IP (Host/ IP)	クライアント ホスト マシンの IP アドレスを入力します。DNS サーバを適切に設定していることを確認します。これには、ISE-PICからのクライアント マシンの逆引きの設定も含まれます。
ユーザ名 (User name)	REST サービスへの送信時に使用する一意のユーザ名を作成します。
パスワード (Password)	REST サービスへの送信時に使用する一意のパスワードを作成します。

API コール

Cisco ISE-PIC で パッシブ ID サービスのユーザ ID イベントを管理するには、次の API コールを使用します。

目的：認証トークンの生成

- 要求

POST

`https://<PIC IP アドレス>:9094/api/fmi_platform/v1/identityauth/generatetoken`

この要求には BasicAuth 許可ヘッダーが含まれている必要があります。ISE-PIC GUI で以前に作成した API プロバイダーのクレデンシャルを提供します。詳細については、[API プロバイダーの設定 \(12 ページ\)](#) を参照してください。

- 応答ヘッダー

このヘッダーには X-auth-access-token が含まれています。これは、追加の REST 要求を送信するときに使用するトークンです。

- 応答本文

HTTP 204 No Content

目的：ユーザの追加

- 要求

POST

`https://<PIC IP アドレス>:9094/api/identity/v1/identity/useridentity`

POST 要求のヘッダーに X-auth-access-token を追加します。（例：ヘッダー：X-auth-access-token、値：f3f25d81-3ac5-43ee-bbfb-20955643f6a7）

- 応答ヘッダー

201 Created

- 応答本文

```
{
  "user": "<ユーザ名>",
  "srcPatRange": {
    "userPatStart": <ユーザ PAT 開始値>,
    "userPatEnd": <ユーザ PAT 終了値>,
    "patRangeStart": <PAT 範囲開始値>
  },
  "srcIpAddress": "<src IP アドレス>",
  "agentInfo": "<エージェント名>",
  "timestamp": "<ISO_8601 形式、例：‘YYYY-MM-DDTHH:MM:SSZ’>",
  "domain": "<ドメイン>"
}
```

- 注記

- 上記の JSON で 1 つの IP ユーザ バインディングを作成するには srcPatRange を削除します。
- 応答本文には「ID」（作成されたユーザセッションバインディングの固有識別子）が含まれています。削除するユーザを指定する DELETE 要求を送信するときに、この ID を使用してください。
- この応答には、新たに作成されたユーザセッションバインディングの URL であるセルフリンクも含まれています。

目的：ユーザの削除

- 要求

DELETE

https://<PIC IP アドレス>:9094/api/identity/v1/identity/useridentity/<id>

<id> に、Add 応答で受信した ID を入力します。

DELETE 要求のヘッダーに X-auth-access-token を追加します。（例：ヘッダー：X-auth-access-token、値：f3f25d81-3ac5-43ee-bbfb-20955643f6a7）

- 応答ヘッダー

200 OK

- 応答本文

応答本文には、削除されたユーザセッション バインディングの詳細が含まれています。

SPAN

SPANです。このとき、Active Directory が ISE-PIC と直接連携するように設定する必要はありません。SPANはネットワークトラフィックをスニフィングし、特に Kerberos メッセージを調べ、Active Directory により保存されているユーザ ID 情報を抽出し、その情報を ISE-PIC に送信します。ISE-PIC は次にその情報を解析し、最終的にはユーザ名、IP アドレス、およびドメイン名を、ISE-PIC からすでに設定しているサブスクリバに送信します。

SPAN がネットワークをリッスンし、Active Directory ユーザ情報を抽出できるようにするには、ISE-PIC と Active Directory の両方がネットワーク上の同一スイッチに接続している必要があります。これにより、SPAN は Active Directory からすべてのユーザ ID データをコピーおよびミラーリングできます。

SPAN により、ユーザ情報は次のように取得されます。

1. ネットワーク上のユーザ エンドポイントがログインします。
2. ログインデータとユーザデータは Kerberos メッセージに保存されます。
3. ユーザがログインし、ユーザデータがスイッチを通過すると、SPAN がネットワークデータをミラーリングします。
4. ISE-PIC は、ユーザ情報を取得するためネットワークをリッスンし、ミラーリングされたデータをスイッチから取得します。
5. ISE-PIC はユーザ情報を解析し、パッシブ ID マッピングを更新します。
6. ISE-PIC は解析後のユーザ情報をサブスクリバに送信します。

SPAN の使用

始める前に

ISE-PIC がネットワーク スイッチから SPAN トラフィックを受信できるようにするには、最初にそのスイッチをリッスンするノードとノードインターフェイスを定義する必要があります。インストールされている複数の ISE-PIC ノードをリッスンするには、SPAN を設定します。ネットワークをリッスンするように設定できるインターフェイスは、ノードごとに1つのみです。また、リッスンするために使用するインターフェイスは SPAN 専用である必要があります。

また、次の操作を行う必要があります。

- ネットワークで Active Directory が設定されていることを確認します。

- スイッチが ISE-PIC と通信できることを確認するために、Active Directory に接続しているネットワーク上のスイッチで CLI を実行します。
- AD からネットワークをミラーリングするようにスイッチを設定します。
- SPAN 専用の ISE-PIC ネットワーク インターフェイス カード (NIC) を設定します。この NIC は SPAN トラフィック専用で使用されます。
- SPAN 専用の NIC が、コマンドライン インターフェイスからアクティブにされていることを確認します。
- Kerberos トラフィックのみを SPAN ポートに送信する VACL を作成します。

ステップ 1 [プロバイダー (Providers)] > [SPAN] を選択して SPAN を設定します。

ステップ 2 (注) GigabitEthernet0 ネットワーク インターフェイス カード (NIC) は使用可能なままにし、SPAN の設定には使用可能な別の NIC を選択することが推奨されます。GigabitEthernet0 は、システム管理の目的で使用されます。

わかりやすい説明を入力し (オプション)、[有効 (Enabled)] ステータスを選択し、ネットワークスイッチのリッスンに使用する関連 NIC とノードを選択します。詳細については、[SPAN 設定 \(16 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

SPAN 設定が保存され、ISE-PIC がネットワーク トラフィックをアクティブにリッスンします。

SPAN 設定

SPAN をクライアントネットワークにインストールすることで、展開した各ノードから、ISE-PIC がユーザ ID を受信することを簡単に設定できます。

表 5: SPAN 設定

フィールド	説明
説明 (Description)	現在有効なノードとインターフェイスがわかる固有の説明を入力します。
ステータス	設定完了後すぐにクライアントを有効にするには、[有効化 (Enabled)] を選択します。

フィールド	説明
インターフェイス NIC (Interface NIC)	<p>ISE-PIC にインストールされているノードの 1 つまたは両方を選択してから、選択したノードごとに、ネットワークをリッスンして情報を得るノードインターフェイスを選択します。</p> <p>(注) GigabitEthernet0 NIC を引き続き使用可能にし、SPAN の設定には他に使用可能な NIC を選択することが推奨されます。GigabitEthernet0 は、システム管理の目的で使用されます。</p>

syslog プロバイダー

ISE-PIC は syslog メッセージを配信する任意のクライアント (ID データプロバイダー) からの syslog メッセージを解析し、MAC アドレスなどのユーザ ID 情報を送信します。syslog メッセージには、通常の syslog メッセージ (InfoBlox、Blue Coat、BlueCat、Lucent などのプロバイダーからのメッセージ) と DHCP syslog メッセージがあります。このマッピングされたユーザ ID データがサブスクライバに配信されます。

ユーザ ID データを受信する syslog クライアントを指定できます ([syslog クライアントの設定 \(18 ページ\)](#) を参照)。プロバイダーの設定時に、接続方法 (TCP または UDP) および解析に使用する syslog テンプレートを指定する必要があります。



- (注) 設定されている接続タイプが TCP であり、メッセージヘッダーに問題があるためにホスト名を解析できない場合、ISE-PIC はパケットで受信した IP アドレスを、ISE-PIC で設定されている syslog メッセージのプロバイダーリストにあるすべてのプロバイダーの IP アドレスと照合しようとします。このリストを表示するには、**[プロバイダー (Providers)] > [syslog プロバイダー (Syslog Providers)]** を選択します。メッセージヘッダーを調べ、解析が正常に実行されるように、必要に応じてカスタマイズすることをお勧めします。ヘッダーのカスタマイズの詳細については、[syslog ヘッダーのカスタマイズ \(26 ページ\)](#) を参照してください。

syslog プロローブが受信した syslog メッセージを ISE-PIC パーサーに送信します。パーサーはユーザ ID 情報をマッピングし、その情報を ISE-PIC に公開します。次に ISE-PIC が、解析およびマッピングされたユーザ ID 情報を ISE-PIC サブスクライバに配信します。



(注) DHCP syslog メッセージにはユーザ名は含まれていません。したがって、これらのメッセージはパーサーから遅れて配信されます。これにより ISE-PIC は、ユーザ ID 情報を正しく解析して配信するために、最初にローカルセッションディレクトリに登録されているユーザ ([ライブセッション (Live Sessions)] で表示) を調べ、その後各ユーザの IP アドレスと受信した DHCP syslog メッセージに指定されている IP アドレスでユーザの照合を試行します。DHCP syslog メッセージから受信したデータが、現在ログインしているいずれのユーザとも一致しない場合、メッセージは解析されず、ユーザ ID は配信されません。

ISE-PIC からの syslog メッセージを解析してユーザ ID を取得するには、次の手順を実行します。

- ユーザ ID データの送信元 syslog クライアントを設定します：[syslog クライアントの設定 \(18 ページ\)](#)
- 1 つのメッセージヘッダーをカスタマイズします：[syslog ヘッダーのカスタマイズ \(26 ページ\)](#)
- テンプレートを作成してメッセージ本文をカスタマイズします：[syslog メッセージ本文のカスタマイズ \(24 ページ\)](#)
- 解析に使用するメッセージテンプレートとして syslog クライアントを設定する場合には、ISE-PIC で事前に定義されているメッセージテンプレートを使用します。あるいは、これらの事前定義テンプレートに基づいてヘッダーまたは本文のテンプレートをカスタマイズします。[syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#)

syslog クライアントの設定

ISE-PIC が特定のクライアントからの syslog メッセージをリッスンできるようにするには、最初に ISE-PIC でその特定のクライアントを定義する必要があります。異なる IP アドレスを使用して複数のプロバイダーを定義できます。

ステップ 1 現在設定されているすべてのクライアントを表示し、既存のクライアントを編集、削除し、新しいクライアントを設定するには、[[プロバイダー \(Providers\)](#)] > [[syslog プロバイダー \(syslog Providers\)](#)] を選択します。

[[syslog プロバイダー \(syslog Providers\)](#)] テーブルが表示されます。このテーブルには既存の各クライアントのステータス情報が含まれています。

ステップ 2 新しい syslog クライアントを設定するには、テーブルの上部で [追加 (Add)] をクリックします。以前に設定したクライアントを編集または変更するには、テーブルでクライアントをオンにし、テーブル上部で [編集 (Edit)] をクリックします。

ステップ 3 クライアントを正しく設定するため、すべての必須フィールドを入力し (詳細については [Syslog の設定 \(19 ページ\)](#) を参照)、必要に応じてメッセージテンプレートを作成します (詳細については [syslog メッセージ本文のカスタマイズ \(24 ページ\)](#) を参照)。

ステップ 4 [送信 (Submit)] をクリックします。

クライアント設定が保存され、更新された [syslog プロバイダー (Syslog Providers)] テーブルが画面に表示されます。

Syslog の設定

特定のクライアントから syslog メッセージによってユーザ ID (MAC アドレスを含む) を受信するように ISE-PIC を設定します。異なる IP アドレスを使用して複数のプロバイダーを定義できます。

[プロバイダー (Providers)] > [syslog プロバイダー (Syslog Providers)] を選択し、テーブルで [追加 (Add)] をクリックして、新しい syslog クライアントを作成します。

表 6: syslog プロバイダー

フィールド	説明
[名前 (Name)]	設定したこのクライアントを容易に区別できる一意の名前を入力します。
説明	この syslog プロバイダーのわかりやすい説明。
ステータス	設定完了後すぐにクライアントを有効にするには、[有効化 (Enabled)] を選択します。
ホスト	ホスト マシンの FQDN を入力します。

フィールド	説明
接続タイプ (Connection Type)	<p>ISE-PIC が syslog メッセージをリッスンするチャンネルを指定するため、UDP または TCP を入力します。</p> <p>(注) 設定されている接続タイプが TCP であり、メッセージヘッダーに問題があるためにホスト名を解析できない場合、ISE-PIC はパケットで受信した IP アドレスを、ISE-PIC で設定されている syslog メッセージのプロバイダー リストのすべてのプロバイダーの IP アドレスと照合しようとします。</p> <p>このリストを表示するには、[プロバイダー (Providers)] > [syslog プロバイダー (Syslog Providers)] を選択します。メッセージヘッダーを調べ、解析が正常に実行されるように、必要に応じてカスタマイズすることが推奨されます。ヘッダーのカスタマイズの詳細については、syslog ヘッダーのカスタマイズ (26 ページ) を参照してください。</p>

フィールド	説明
テンプレート (Template)	

フィールド	説明
	<p>テンプレートにより正確な本文メッセージ構造が指定されます。これにより、パーサーは syslog メッセージ内で解析、マッピング、配信する必要がある各情報部分を識別できます。</p> <p>たとえば、テンプレートでは正確なユーザ名部分を指定できます。これにより、パーサーは受信するすべてのメッセージでユーザ名を検出できます。</p> <p>このフィールドでは、syslog メッセージを認識して正しく解析するために使用される (syslog メッセージの本文の) テンプレートを指定します。</p> <p>事前定義のドロップダウンリストから選択するか、または [新規 (New)] をクリックして独自のカスタムテンプレートを作成します。新しいテンプレートの作成の詳細については、syslog メッセージ本文のカスタマイズ (24 ページ) を参照してください。ほとんどの事前定義テンプレートでは正規表現が使用されています。カスタムテンプレートでも正規表現を使用する必要があります。</p> <p>(注) 編集または削除できるのはカスタムテンプレートだけであり、ドロップダウンの事前定義システムテンプレートは変更できません。</p> <p>現在 ISE-PIC に含まれている事前定義 DHCP プロバイダーテンプレートを次に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • InfoBlox • BlueCat • Lucent_QIP • DHCPD • MSAD DHCP <p>(注) DHCP syslog メッセージにはユーザ名は含まれていません。したがって、これらのメッセージはパーサーから遅れて配信されます。これにより ISE-PIC は、ユーザ ID 情報を正しく解析して配信するために、最初に</p>

フィールド	説明
	<p>ローカルセッションディレクトリに登録されているユーザ ([ライブセッション (Live Sessions)] で表示) を調べ、その後各ユーザの IP アドレスと受信した DHCP syslog メッセージに指定されている IP アドレスを照合してユーザ照合を試行します。</p> <p>DHCP syslog メッセージから受信したデータが、現在ログインしているユーザに一致しない場合、メッセージは解析されず、ユーザ ID は配信されません。</p> <p>ISE-PIC には次の事前定義の標準 syslog プロバイダー テンプレートがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ISE • ACS • F5_VPN • ASA_VPN • Blue Coat • Aerohive • Safe connect_NAC • Nortel_VPN <p>テンプレートについては、syslog 事前定義メッセージ テンプレートの使用 (30 ページ) を参照してください。</p>
デフォルト ドメイン (Default Domain)	<p>syslog メッセージで特定のユーザに対してドメインが指定されていない場合、このデフォルトドメインが自動的にそのユーザに割り当てられます。これにより、すべてのユーザにドメインが割り当てられます。</p> <p>デフォルトドメインまたはメッセージから解析されたドメインにユーザ名が付加され、username@domain となります。したがって、ユーザとユーザグループに関する詳細情報を取得するためには、ドメインを含めます。</p>

syslog メッセージ構造のカスタマイズ (テンプレート)

テンプレートは正確なメッセージ構造を指定します。これにより、パーサーはsyslogメッセージ内で解析、マッピング、配信する必要がある各情報部分を識別できます。たとえば、テンプレートでは正確なユーザ名部分を指定できます。これにより、パーサーは受信するすべてのメッセージでユーザ名を検出できます。テンプレートにより、新規マッピングメッセージとマッピング削除メッセージの両方に対応する構造が決定します。

Cisco ISE-PIC では、ISE-PIC パーサーが使用する 1 つのメッセージヘッダーと複数の本文構造をカスタマイズできます。

ISE-PIC パーサーが、メッセージがユーザ ID マッピングを追加するためのメッセージであるかまたは削除するためのメッセージであるかを正しく識別し、ユーザの詳細情報を正しく解析できるようにするため、テンプレートには、ユーザ名、IP アドレス、MAC アドレス、およびドメインの構造を定義する正規表現が含まれている必要があります。

メッセージテンプレートをカスタマイズするときに、事前定義オプションで使用されている正規表現とメッセージ構造を調べ、ISE-PIC の事前定義メッセージテンプレートに基づいてカスタマイズを行うかどうかを決定できます。事前定義テンプレートの正規表現、メッセージ構造、例などの詳細については、[syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照してください。

次の内容をカスタマイズできます。

- 1 つのメッセージヘッダー：[syslog ヘッダーのカスタマイズ \(26 ページ\)](#)
- 複数のメッセージ本文：[syslog メッセージ本文のカスタマイズ \(24 ページ\)](#)。



(注) DHCP syslog メッセージにはユーザ名は含まれていません。したがって、これらのメッセージはパーサーから遅れて配信されます。これにより ISE-PIC は、ユーザ ID 情報を正しく解析して配信するために、最初にローカルセッションディレクトリに登録されているユーザ ([ライブセッション (Live Sessions)] で表示) を調べ、その後各ユーザの IP アドレスと受信した DHCP syslog メッセージに指定されている IP アドレスを照合してユーザ照合を試行します。DHCP syslog メッセージから受信したデータが、現在ログインしているユーザに一致しない場合、メッセージは解析されず、ユーザ ID は配信されません。

DHCP メッセージの詳細情報を適切に照合、解析、マッピングするために必要な遅延は、カスタマイズされたテンプレートには適用できません。したがって、DHCP メッセージテンプレートをカスタマイズすることは推奨されません。代わりに、事前定義の DHCP テンプレートを使用してください。

syslog メッセージ本文のカスタマイズ

Cisco ISE-PIC では、ISE-PIC パーサーにより解析される syslog メッセージテンプレートをカスタマイズできます (メッセージ本文のカスタマイズ)。テンプレートには、ユーザ名、IP アドレス、MAC アドレス、およびドメインの構造を定義する正規表現が含まれている必要があります。



(注) DHCP syslog メッセージにはユーザ名は含まれていません。したがって、これらのメッセージはパーサーから遅れて配信されます。これにより ISE-PIC は、ユーザ ID 情報を正しく解析して配信するために、最初にローカルセッションディレクトリに登録されているユーザ ([ライブセッション (Live Sessions)] で表示) を調べ、その後各ユーザの IP アドレスと受信した DHCP syslog メッセージに指定されている IP アドレスを照合してユーザ照合を試行します。DHCP syslog メッセージから受信したデータが、現在ログインしているユーザに一致しない場合、メッセージは解析されず、ユーザ ID は配信されません。

DHCP メッセージの詳細情報を適切に照合、解析、マッピングするために必要な遅延は、カスタマイズされたテンプレートには適用できません。したがって、DHCP メッセージテンプレートをカスタマイズすることは推奨されません。代わりに、事前定義の DHCP テンプレートを使用してください。

syslog クライアント設定画面から、syslog メッセージ本文テンプレートを作成および編集します。



(注) 各自でカスタマイズしたテンプレートだけを編集できます。システムに用意されている事前定義テンプレートは変更できません。

- ステップ 1** 現在設定されているすべてのクライアントを表示し、既存のクライアントを編集、削除し、新しいクライアントを設定するには、[プロバイダー (Providers)] > [syslog プロバイダー (syslog Providers)] を選択します。
[syslog プロバイダー (syslog Providers)] テーブルが表示されます。このテーブルには既存の各クライアントのステータス情報が含まれています。
- ステップ 2** 新しい syslog クライアントを追加するには [追加 (Add)] をクリックし、すでに設定されているクライアントを更新するには [編集 (Edit)] をクリックします。テンプレートを追加または編集するだけの場合、どのオプションを選択するかは関係ありません。syslog クライアントの設定と更新については、[syslog クライアントの設定 \(18 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3** [syslog プロバイダー (Syslog Providers)] 画面の [テンプレート (Template)] フィールドの隣にある [新規 (New)] をクリックし、新しいメッセージテンプレートを作成します。既存のテンプレートを編集するには、ドロップダウンリストからテンプレートを選択して [編集 (Edit)] をクリックします。
[syslog テンプレート (Syslog Template)] 画面が表示されます。
- ステップ 4** 必須フィールドをすべて指定します。
値を正しく入力する方法の詳細については、[syslog カスタマイズ テンプレートの設定と例 \(27 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 5** [テスト (Test)] をクリックして、入力した文字列に基づいてメッセージが正しく解析されていることを確認します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。

カスタマイズしたテンプレートが保存され、新しい syslog クライアントの設定時と既存の syslog クライアントの更新時に [テンプレート (Template)] フィールドのドロップダウンリストにこのテンプレートが表示されます。

syslog ヘッダーのカスタマイズ

syslog ヘッダーには、メッセージの送信元のホスト名が他の詳細情報と共に含まれています。syslog メッセージが ISE-PIC メッセージパーサーで認識されない場合は、ホスト名の後に続く区切り文字を設定し、ISE-PIC がホスト名を認識してメッセージを正しく解析できるようにすることで、メッセージヘッダーをカスタマイズする必要がある場合があります。この画面のフィールドの詳細については、[syslog カスタマイズテンプレートの設定と例 \(27 ページ\)](#) を参照してください。カスタマイズされたヘッダーの設定は保存され、メッセージを受信するたびにパーサーが使用するヘッダータイプにこの設定が追加されます。



(注) 1 つのヘッダーだけをカスタマイズできます。ヘッダーのカスタマイズ後に、[カスタムヘッダー (Custom Header)] をクリックして保存するテンプレートを作成し、[送信 (Submit)] をクリックすると、最新の設定が保存され、以前のカスタマイズ内容が上書きされます。

ステップ 1 現在設定されているすべてのクライアントを表示し、既存のクライアントを編集、削除し、新しいクライアントを設定するには、[プロバイダー (Providers)] > [syslog プロバイダー (syslog Providers)] を選択します。

[syslog プロバイダー (syslog Providers)] テーブルが表示されます。このテーブルには既存の各クライアントのステータス情報が含まれています。

ステップ 2 [カスタムヘッダー (Custom Header)] をクリックして [syslog カスタムヘッダー (Syslog Custom Header)] 画面を開きます。

ステップ 3 [サンプル syslog を貼り付ける (Paste sample syslog)] に、syslog メッセージのヘッダー形式の例を入力します。たとえば、メッセージの 1 つからヘッダー `<181>Oct 10 15:14:08 Cisco.com` をコピーして貼り付けます。

ステップ 4 [区切り文字 (Separator)] フィールドで、単語をスペースとタブのいずれで区切るかを指定します。

ステップ 5 [ヘッダーのホスト名の位置 (Position of hostname in header)] フィールドで、ヘッダーのどの位置がホスト名であるかを指定します。たとえば、前述のヘッダーではホスト名は 4 番目の単語です。これを指定するには 4 と入力します。

[ホスト名 (Hostname)] フィールドに、最初の 3 つのフィールドに示される詳細情報に基づいてホスト名が表示されます。たとえば、[syslog の例を貼り付ける (Paste sample syslog)] でのヘッダーの例の場合は次のようになります。

```
<181>Oct 10 15:14:08 Cisco.com
```

区切り文字として [スペース (Space)] を指定し、[ヘッダーのホスト名の位置 (Position of hostname in header)] には 4 を入力します。

[ホスト名 (Hostname)]には自動的に Cisco.com と表示されます。これは、[syslog の例を貼り付ける (Paste sample syslog)] フィールドに貼り付けたヘッダー フレーズの 4 番目の単語です。

ホスト名が正しく表示されない場合は、[区切り文字 (Separator)] フィールドと [ヘッダーのホスト名の位置 (Position of hostname in header)] フィールドに入力したデータを確認してください。

この例を次のスクリーン キャプチャに示します。

図 1: syslog ヘッダーのカスタマイズ

ステップ 6 (注) 1つのヘッダーだけをカスタマイズできます。ヘッダーのカスタマイズ後に、[カスタムヘッダー (Custom Header)]をクリックして保存するテンプレートを作成し、[送信 (Submit)]をクリックすると、最新の設定が保存され、以前のカスタマイズ内容が上書きされます。

[送信 (Submit)]をクリックします。

カスタマイズされたヘッダーの設定は保存され、メッセージを受信するたびにパーサーが使用するヘッダータイプにこの設定が追加されます。

syslog カスタマイズ テンプレートの設定と例

Cisco ISE-PIC では、ISE-PIC パーサーにより解析される syslog メッセージテンプレートをカスタマイズできます。カスタマイズされたテンプレートは、新規マッピングメッセージとマッピング削除メッセージの両方に対応する構造を決定します。ISE-PIC パーサーが、メッセージがユーザ ID マッピングを追加するためのメッセージであるかまたは削除するためのメッセージであるかを正しく識別し、ユーザの詳細情報を正しく解析できるようにするため、テンプレートには、ユーザ名、IP アドレス、MAC アドレス、およびドメインの構造を定義する正規表現が含まれている必要があります。



(注) ほとんどの事前定義テンプレートでは正規表現が使用されます。カスタマイズテンプレートでも正規表現を使用してください。

syslog ヘッダーの各部分

ホスト名の後に続く区切り文字を設定することで、syslog プロンプトが認識する単一ヘッダーをカスタマイズできます。

[プロバイダー (Providers)] > [syslog プロバイダー (Syslog Providers)] を選択し、テーブルで [カスタム ヘッダー (Custom Header)] をクリックして、カスタム syslog メッセージヘッダーを作成します。

次の表に、カスタム syslog ヘッダーに組み込むことができるさまざまな部分とフィールドについて説明します。正規表現の詳細については、[表 9: カスタマイズテンプレートの正規表現 \(30 ページ\)](#) を参照してください。

表 7: syslog カスタム ヘッダー

フィールド	説明
syslog の例を貼り付ける (Paste sample syslog)	syslog メッセージにヘッダー形式の例を入力します。たとえば、次のヘッダーをコピーして貼り付けます。 <181>Oct 10 15:14:08 Hostname Message
区切り文字 (Separator)	単語をスペースまたはタブのいずれかで区切るかを指定します。
ヘッダーのホスト名の位置 (Position of hostname in header)	ヘッダーでのホスト名の位置を指定します。たとえば、前述のヘッダーではホスト名は 4 番目の単語です。これを指定するには 4 と入力します。

フィールド	説明
ホストネーム	<p>最初の 3 つのフィールドに示される詳細情報に基づいて、ホスト名を表示します。たとえば、[syslog の例を貼り付ける (Paste sample syslog)] でのヘッダーの例の場合は次のようになります。</p> <p><181>Oct 10 15:14:08 Hostname Message</p> <p>区切り文字として [スペース (Space)] を指定し、[ヘッダーのホスト名の位置 (Position of hostname in header)] には 4 を入力します。</p> <p>[ホスト名 (Hostname)] には Hostname が自動的に表示されます。</p> <p>ホスト名が正しく表示されない場合は、[区切り文字 (Separator)] フィールドと [ヘッダーのホスト名の位置 (Position of hostname in header)] フィールドに入力したデータを確認してください。</p>

メッセージ本文の syslog テンプレートの各部分と説明

次の表に、カスタマイズ syslog メッセージテンプレートに組み込むことができるさまざまな部分とフィールドについて説明します。正規表現の詳細については、[表 9: カスタマイズ テンプレートの正規表現 \(30 ページ\)](#) を参照してください。

表 8: syslog テンプレート

パート	フィールド	説明
	[名前 (Name)]	このテンプレートの目的がわかる一意の名前。
マッピング操作	新規マッピング	新しいユーザを追加するためにこのテンプレートで使用されるマッピングのタイプを記述する正規表現。たとえば、F5VPNにログインした新しいユーザを示すには、このフィールドに「logged on from」と入力します。
	削除されたマッピング	ユーザを削除するためにこのテンプレートで使用されるマッピングのタイプを記述する正規表現。たとえば、削除する必要がある ASA VPN のユーザを示すには、このフィールドに「session disconnect」と入力します。

パート	フィールド	説明
ユーザデータ	IPアドレス	キャプチャする IP アドレスを示す正規表現。 たとえば Bluecat メッセージの場合、この IP アドレス範囲内のユーザの ID をキャプチャするには、次のように入力します。 (on\s\to\s)((?:25[0-5]2[0-4][0-9][01]?[0-9][0-9]?)\.){3}(?:25[0-5]2[0-4][0-9][01]?[0-9][0-9]?))
	ユーザ名	キャプチャするユーザ名形式を示す正規表現。
	ドメイン	キャプチャするドメインを示す正規表現。
	MAC アドレス	キャプチャする MAC アドレスの形式を示す正規表現。

正規表現の例

メッセージを解析するため、正規表現を使用します。ここでは、IP アドレス、ユーザ名、およびマッピング追加メッセージを解析する正規表現の例を示します。

たとえば、正規表現を使用して次のメッセージを解析します。

```
<174>192.168.0.1 %ASA-4-722051: Group <DfltGrpPolicy> User <user1> IP <192.168.0.10> IPv4 Address <192.168.0.6> IPv6 address <::> assigned to session
<174>192.168.0.1 %ASA-6-713228: Group = xyz, Username = user1, IP = 192.168.0.12, Assigned private IP address 192.168.0.8 to remote user
```

次の表に、正規表現の定義を示します。

表 9: カスタマイズテンプレートの正規表現

パート	[正規表現 (Regular Expression)]
IP アドレス	Address <([\s]+)> address ([\s]+)
ユーザ名 (User name)	User <([\s]+)> Username = ([\s]+)
マッピング追加メッセージ (Add mapping message)	(%ASA-4-722051 %ASA-6-713228)

syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用

syslog メッセージには、ヘッダーとメッセージ本文を含む標準構造があります。

ここでは、メッセージの送信元に基づいてサポートされているヘッダーの内容の詳細や、サポートされている本文の構造など、Cisco ISE-PIC が提供する事前定義テンプレートについて説明します。

また、システムで事前に定義されていないソース用に、カスタマイズした本文コンテンツを使用した独自のテンプレートを作成することもできます。ここでは、カスタムテンプレートでサポートされる構造について説明します。メッセージの解析時には、システムで事前定義されているヘッダーに加え、1つのカスタマイズヘッダーを設定できます。また、メッセージ本文には、服すのカスタマイズテンプレートを設定できます。ヘッダーのカスタマイズの詳細については、[syslog ヘッダーのカスタマイズ \(26 ページ\)](#) を参照してください。本文のカスタマイズの詳細については、[syslog メッセージ本文のカスタマイズ \(24 ページ\)](#) を参照してください。



(注) ほとんどの事前定義テンプレートでは正規表現が使用されています。カスタムテンプレートでも正規表現を使用する必要があります。

メッセージヘッダー

パーサーで認識されるヘッダータイプには、すべてのクライアントマシンのすべてのメッセージタイプ（新規および削除）について認識される2つのタイプがあります。これらのヘッダーは次のとおりです。

- <171>Host message
- <171>Oct 10 15:14:08 Host message

受信されたヘッダーはホスト名を検出するため解析されます。ホスト名は、IPアドレス、ホスト名、または完全 FQDN のいずれかです。

ヘッダーもカスタマイズできます。ヘッダーをカスタマイズするには、[syslog ヘッダーのカスタマイズ \(26 ページ\)](#) を参照してください。

syslog ASA VPN 事前定義テンプレート

ASA VPN でサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

ヘッダー

パーサーでサポートされるヘッダーはすべてのクライアントで同一です（[syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照）。

新規マッピング本文メッセージ

次の表では、パーサーが認識するさまざまな ASA VPN 本文メッセージについて説明します。

本文メッセージ	解析例
%ASA-6-109005 Authentication succeeded for user UserA from 10.0.0.11/100 to 10.10.11.11/20 on interface eth1/1	[UserA,10.0.0.11]
%ASA-6-602303 IPSEC: An direction tunnel_type SA (SPI=spi) between local_IP and 10.0.0.11 (UserA) has been created.	
%ASA-6-721016 (device) WebVPN session for client user UserA, IP 10.0.0.11 has been created.	
%ASA-6-603104 PPTP Tunnel created, tunnel_id is number, remote_peer_ip is remote_address, ppp_virtual_interface_id is number, \ client_dynamic_ip is 10.0.0.11, ffg123 #% UserA is UserA, MPPE_key_strength is string	
%ASA-6-603106 L2TP Tunnel created, tunnel_id is number, remote_peer_ip is remote_address, ppp_virtual_interface_id is number, \ client_dynamic_ip is 10.0.0.11, UserA is user	
%ASA-6-113039 Group group User UserA IP 10.0.0.11 AnyConnect parent session started.	
%ASA-6-802001 User UserA IP 10.100.1.1 OS os_name UDID number MDM action session started.	
%ASA-6-713228: Group = xyz, UserA = xxxx227, IP = 192.168.0.11, Assigned private IP address 172.16.0.11 to remote user	[UserA,172.16.0.11] (注) このメッセージタイプから解析されるIPアドレスは、メッセージに示されているようにプライベートIPアドレスです。
%ASA-4-722051: Group <DfltGrpPolicy> User <UserA> IP <172.16.0.12> IPv4 Address <172.16.0.21> IPv6 address <::> assigned to session	[UserA,172.16.0.12] (注) このメッセージタイプから解析されたIPアドレスはIPv4アドレスです。

マッピング削除本文メッセージ

ここではパーサーでASA VPNのためにサポートされているマッピング削除メッセージについて説明します。

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[UserA,10.1.1.1]

本文メッセージ
%ASA-4-113019 Group = group, UserA = UserA, IP = 10.1.1.1, Session disconnected. Session Type: type, Duration:\ duration, Bytes xmt: count,Bytes rcv: count, Reason: reason
%ASA-4-717052 Group group name User UserA IP 10.1.1.1 Session disconnected due to periodic certificate authentication failure. Subject Name id subject name Issuer Name id issuer name\ Serial Number id serial number
%ASA-6-602304 IPSEC: An direction tunnel_type SA (SPI=spi) between local_IP and 10.1.1.1 (UserA) has been deleted.
%ASA-6-721018 WebVPN session for client user UserA, IP 10.1.1.1 has been deleted.
%ASA-4-722049 Group group User UserA IP 10.1.1.1 Session terminated: SVC not enabled or invalid image on the ASA
%ASA-4-722050 Group group User UserA IP 10.1.1.1 Session terminated: SVC not enabled for the user.
%ASA-6-802002 User UserA IP 10.1.1.1 OS os_name UDID number MDM action session terminated.
%ASA-3-716057 Group group User UserA IP 10.1.1.1 Session terminated, no type license available.
%ASA-3-722046 Group group User UserA IP 10.1.1.1 Session terminated: unable to establish tunnel.
%ASA-4-113035 Group group User UserA IP 10.1.1.1 Session terminated: AnyConnect not enabled or invalid AnyConnect image on the ASA.
%ASA-4-716052 Group group-name User UserA IP 10.1.1.1 Pending session terminated.
%ASA-6-721018 WebVPN session for client user UserA, IP 10.1.1.1 has been deleted.

syslog Bluecat 事前定義テンプレート

Bluecat でサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

ヘッダー

パーサーでサポートされるヘッダーはすべてのクライアントで同一です ([syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照)。

新規マッピング本文メッセージ

ここでは、Bluecat syslog で新規マッピングとしてサポートされるメッセージについて説明します。

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[macAddress=nn:xx:nn:ca:xx:nn,ip=172.16.0.12]

本文
Nov 7 23:37:32 xx-campus1 dhcpd: DHCPACK on 172.16.0.13 to nn:xx:nn:ca:xx:nn via 172.16.0.17

マッピング削除メッセージ

Bluecat のマッピング削除メッセージはありません。

syslog F5 VPN 事前定義テンプレート

F5 VPN でサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

ヘッダー

パーサーでサポートされるヘッダーはすべてのクライアントで同一です ([syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照)。

新規マッピング本文メッセージ

次の表では、パーサーが認識するさまざまな F5 VPN 本文メッセージについて説明します。

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[user=UserA,ip=172.16.0.12]

本文
Apr 10 09:33:58 Oct 2 08:28:32 abc.xyz.org security[nnnnn]: [UserA@vendor-abcr] User UserA logged on from 172.16.0.21 to \ 172.16.0.12 Sid = xyz\

マッピング削除メッセージ

現在、F5 VPN でサポートされている削除メッセージはありません。

syslog Infoblox 事前定義テンプレート

Infoblox でサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

ヘッダー

パーサーでサポートされるヘッダーはすべてのクライアントで同一です ([syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照)。

新規マッピング本文メッセージ

次の表では、パーサーが認識するさまざまな ASA VPN 本文メッセージについて説明します。

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[macAddress= nn:xx:xx:xx:nn:nn,ip=10.0.10.100]

本文メッセージ
Nov 15 11:37:26 user1-lnx dhcpd[3179]: DHCPACK on 10.0.0.14 to nn:xx:xx:xx:nn:nn (android-df67ddcbb1271593) via eth2 relay 10.0.0.24 lease-duration 3600
Nov 15 11:38:11 user1-lnx dhcpd[3179]: DHCPACK on 172.16.0.18 to nn:xx:xx:xx:nn:nn (DESKTOP-HUDGAAQ) via eth2 relay 172.16.0.13 lease-duration 691200 (RENEW)

本文メッセージ
Nov 15 11:38:11 192.168.0.12 dhcpd[25595]: DHCPACK to 10.0.0.11 (nn:xx:xx:xn:nn:nx) via eth1

マッピング削除メッセージ

マッピング削除では次のメッセージがサポートされています。

パーサーはさまざまな本文メッセージをマッピング削除メッセージとして認識します。これについて次の表で説明します。

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

- MAC アドレスが含まれている場合 :
[00:0c:29:a2:18:34,10.0.10.100]
- MAC アドレスが含まれていない場合 :
[10.0.10.100]

本文メッセージ
07-11-2016 23:37:32 Daemon.Info 10.0.10.2 Jul 12 10:42:26 10.0.10.2 dhcpd[26083]: DHCP_EXPIRE 10.0.10.100 has expired
07-11-2016 23:37:32 Daemon.Info 10.0.10.2 Jul 12 10:42:26 10.0.10.2 dhcpd[26083]: DHCP_RELEASE of 10.0.10.100 from 00:0c:29:a2:18:34 \ (win10) via eth1 uid 01:00:0c:29:a2:18:34
07-11-2016 23:37:32 Daemon.Info 10.0.10.2 Jul 12 10:42:26 10.0.10.2 dhcpd[25595]: RELEASE on 10.20.31.172 to c0:ce:cd:44:4f:bd

syslog Linux DHCPd3 事前定義テンプレート

Linux DHCPd3 でサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

ヘッダー

パーサーでサポートされるヘッダーはすべてのクライアントで同一です ([syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照)。

新規マッピングメッセージ

次の表では、パーサーが認識するさまざまな Linux DHCPd3 本文メッセージについて説明します。

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[macAddress=24:ab:81:ca:f2:72,ip=172.16.0.21]

本文メッセージ
Nov 11 23:37:32 dhcprsv dhcpd: DHCPACK on 10.0.10.100 to 00:0c:29:a2:18:34 (win10) via eth1

本文メッセージ

```
Nov 11 23:37:32 dhcprsv dhcpd: DHCPACK on 10.0.10.100 (00:0c:29:a2:18:34) via eth1
```

マッピング削除本文メッセージ

ここではパーサーで Linux DHCPd3 のためにサポートされているマッピング削除メッセージについて説明します。

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[00:0c:29:a2:18:34,10.0.10.100]

本文メッセージ

```
Nov 11 23:37:32 dhcprsv dhcpd: DHCP_EXPIRE 10.0.10.100 has expired
```

```
Nov 11 23:37:32 dhcprsv dhcpd: DHCP_RELEASE of 10.0.10.100 from 00:0c:29:a2:18:34 (win10) via eth1
```

syslog MS DHCP 事前定義テンプレート

MS DHCP でサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

ヘッダー

パーサーでサポートされるヘッダーはすべてのクライアントで同一です ([syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照)。

新規マッピング本文メッセージ

次の表では、パーサーが認識するさまざまな MS DHCP 本文メッセージについて説明します。

受信すると、パーサーはカンマ (,) を検索してデータを分割し、これらの形式のメッセージが次の例に示すように解析されます。

[macAddress=000C29912E5D,ip=10.0.10.123]

本文メッセージ

```
Nov 11 23:37:32
10/07/21/16,16:55:22,Assign,10.0.10.123,win10.IDCSPAN.Local,000C29912E5D,,724476048,0,,,0x4D53465420352E30,MSFT,5.0
```

マッピング削除本文メッセージ

ここではパーサーで MS DHCP のためにサポートされているマッピング削除メッセージについて説明します。

受信すると、パーサーはカンマ (,) を検索してデータを分割し、これらの形式のメッセージが次の例に示すように解析されます。

[macAddress=000C29912E5D,ip=10.0.10.123]

本文メッセージ
Nov 11 23:37:32 12,07/21/16,16:55:18,Release,10.0.10.123,win10.IDCSPAN.Local,000C29912E5D,,3128563632,\0,,,,,,,,,0

syslog SafeConnect NAC 事前定義テンプレート

SafeConnect NAC でサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

ヘッダー

パーサーでサポートされるヘッダーはすべてのクライアントで同一です ([syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照)。

新規マッピング本文メッセージ

次の表では、パーサーが認識するさまざまな SafeConnect NAC 本文メッセージについて説明します。

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[user=galindk1i,p=xxxx.xx.xxx.xxd,domain=Resnet-Macs]

本文メッセージ
Apr 10 09:33:58 nac Safe*Connect: authenticationResult xxx.xx.xxx.xxx xxx.xx.xxx.xxx UserA true Resnet-Macs TCNJ-Chain 001b63b79018 MAC

マッピング削除メッセージ

現在、Safe Connect でサポートされている削除メッセージはありません。

syslog Aerohive 事前定義テンプレート

Aerohive でサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

ヘッダー

パーサーでサポートされるヘッダーはすべてのクライアントで同一です ([syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照)。

新規マッピング本文メッセージ

次の表では、パーサーが認識するさまざまな Aerohive 本文メッセージについて説明します。

本文で解析される詳細には、ユーザ名と IP アドレスがあります。解析に使用される正規表現の例を次に示します。

- New mapping-auth\
 - IP-ip ([A-F0-9a-f:.]+)

- User name=UserA ([a-zA-Z0-9_]+)

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[UserA,10.5.50.52]

本文メッセージ
2013-04-01 14:06:05 info ah auth: Station 1cab:a7e6:cf7f ip 10.5.50.52 UserA UserA

マッピング削除メッセージ

現在、Aerohive からのマッピング削除メッセージはサポートされていません。

syslog Blue Coat 事前定義テンプレート : Main Proxy、Proxy SG、Squid Web Proxy

Blue Coat の次のメッセージタイプがサポートされています。

- BlueCoat Main Proxy
- BlueCoat Proxy SG
- BlueCoat Squid Web Proxy

BlueCoat メッセージでサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

ヘッダー

パーサーでサポートされるヘッダーはすべてのクライアントで同一です ([syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照)。

新規マッピング本文メッセージ

次の表では、パーサーが認識するさまざまな Blue Coat 本文メッセージについて説明します。

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[UserA,192.168.10.24]

本文メッセージ (この例は、BlueCoat プロキシ SG メッセージからの引用です)
2016-09-21 23:05:33 58 10.0.0.1 UserA -- PROXIED "none" http://www.example.com/ 200 TCP_MISS GET application/json;charset=UTF-8 http site.api.example.com 80 /apis/v2/scoreboard/header?rand=1474499133503 - "Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; Win64; x64) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/46.0.2486.0 Safari/537.36 Edge/13.10586" 192.168.10.24 7186 708 - "unavailable"

次の表では、新規マッピングメッセージに使用されるクライアント別の正規表現構造について説明します。

クライアント	正規表現
BlueCoat Main Proxy	新規マッピング (TCP_HIT TCP_MEM){1} IP ^(?:09 13 309 13)(?:[a-zA-Z09]{14} 12 17[a-zA-Z09]{14})\$ ユーザ名 (User name) \s \s([a-zA-Z0-9_]+)\s \s
BlueCoat Proxy SG	新規マッピング (\sPROXIED){1} IP ^(?:09 13 309 13)(?:[a-zA-Z09]{14} 12 17[a-zA-Z09]{14})\$ ユーザ名 (User name) \s[0-9]{1,3}[0-9]{1,3}[0-9]{1,3}[0-9]{1,3}\s([a-zA-Z0-9_]+)\s-
BlueCoat Squid Web Proxy	新規マッピング (TCP_HIT TCP_MEM){1} IP ^(?:09 13 309 13)(?:[a-zA-Z09]{14} 12 17[a-zA-Z09]{14})\$ TCP ユーザ名 (User name) \s([a-zA-Z0-9_]+)\s-/

マッピング削除メッセージ

Blue Coat クライアントではマッピング削除メッセージがサポートされていますが、現在利用できる例はありません。

次の表では、マッピング削除メッセージに使用されるクライアント別の既知の正規表現構造について説明します。

クライアント	正規表現
BlueCoat Main Proxy	(TCP_MISS TCP_NC_MISS){1}
BlueCoat Proxy SG	現在利用できる例はありません。
BlueCoat Squid Web Proxy	(TCP_MISS TCP_NC_MISS){1}

syslog ISE および ACS 事前定義テンプレート

パーサーは ISE または ACS クライアントをリッスンするときに、次のメッセージタイプを受信します。

- 認証成功：ユーザが ISE または ACS により認証されると、認証が成功したことを通知し、ユーザの詳細情報を記述した認証成功メッセージが発行されます。このメッセージが解析され、このメッセージのユーザの詳細とセッション ID が保存されます。
- アカウンティング開始およびアカウンティング更新メッセージ（新規マッピング）：ISE または ACS から受信したアカウンティング開始メッセージまたはアカウンティング更新メッセージは、認証成功メッセージから保存されたユーザの詳細とセッション ID を使用して解析され、ユーザがマッピングされます。
- アカウンティング終了（マッピング削除）：ISE または ACS から受信されると、システムからユーザマッピングが削除されます。

ISE および ACS でサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

認証成功メッセージ

認証成功メッセージとして次のメッセージがサポートされています。

- ヘッダー

```
<181>Sep 13 10:51:41 Server logTag messageId totalFragments currentFragments message
```

例：<181>Sep 13 10:51:41 Positron CISE_PassiveID 0000005255 1 0 message

- 本文

```
Passed-Authentication 000011 1 0 2016-05-09 12:48:11.011 +03:00 0000012435 5200 NOTICE
Passed-Authentication: Authentication succeeded, ConfigVersionId=104, Device IP Address=10.0.0.12,
DestinationIPAddress=10.0.0.18, DestinationPort=1812, UserA=UserA, Protocol=Radius,
RequestLatency=45, NetworkDeviceName=DefaultNetworkDevice, User-Name=UserA,
NAS-IP-Address=1.1.1.1, Session-Timeout=90, Calling-Station-ID=, cisco-av-pair=audit-session-id=5
```

- 解析例

ユーザ名とセッション ID だけが解析されます。

```
[UserA,5]
```

アカウンティング開始/更新（新規マッピング）メッセージ

新規マッピングメッセージとして次のメッセージがサポートされています。

- ヘッダー

```
<181>Sep 13 10:51:41 Server logTag messageId totalFragments currentFragments message
```

例：<181>Sep 13 10:51:41 Positron CISE_PassiveID 0000005255 1 0 message

- 本文

```
CISE_RADIUS_Accounting 000011 1 0 2016-05-09 12:53:52.823 +03:00 0000012451 3000 NOTICE
Radius-Accounting: RADIUS Accounting start request, ConfigVersionId=104, Device IP
Address=10.0.0.12, RequestLatency=12, NetworkDeviceName=DefaultNetworkDevice,
User-Name=UserA, NAS-IP-Address=10.0.0.1, Framed-IP-Address=10.0.0.16, Session-Timeout=90,
Calling-Station-ID=, Acct-Status-Type=Start, Acct-Session-Id=6, cisco-av-pair=audit-session-id=5
```


- 解析例

解析される詳細には、ユーザ名、フレーム IP アドレス、および MAC アドレス（メッセージに含まれている場合）などがあります。

[UserA,10.0.0.16]

マッピング削除メッセージ

マッピング削除では次のメッセージがサポートされています。

- ヘッダー

<181>Sep 13 10:51:41 Server logTag messageId totalFragments currentFragments message

例 : <181>Sep 13 10:51:41 Positron CISE_PassiveID 0000005255 1 0 message

- 本文

2016-05-09 12:56:27.274 +03:00 0000012482 3001 NOTICE Radius-Accounting: RADIUS Accounting stop request, ConfigVersionId=104, Device IP Address=10.0.0.17, RequestLatency=13, NetworkDeviceName=DefaultNetworkDevice, User-Name=UserA, NAS-IP-Address=10.0.0.1, Framed-IP-Address=10.0.0.16, Session-Timeout=90, Calling-Station-ID=, Acct-Status-Type=Stop, Acct-Session-Id=104, cisco-av-pair=audit-session-id=5

- 解析例

解析される詳細には、ユーザ名、フレーム IP アドレス、および MAC アドレス（メッセージに含まれている場合）などがあります。

[UserA,10.0.0.16]

syslog Lucent QIP 事前定義テンプレート

Lucent QIP でサポートされる syslog メッセージの形式とタイプについて説明します。

ヘッダー

パーサーでサポートされるヘッダーはすべてのクライアントで同一です（[syslog 事前定義メッセージテンプレートの使用 \(30 ページ\)](#) を参照）。

新規マッピング本文メッセージ

次の表では、パーサーが認識するさまざまな Lucent QIP 本文メッセージについて説明します。

これらのメッセージの正規表現構造を次に示します。

DHCP_GrantLease|:DHCP_RenewLease

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[00:0C:29:91:2E:5D,10.0.0.11]

本文メッセージ
DHCP:subtype=0:Single:\$IGNORE_N\$ DHCP_GrantLease: Host=\$HOSTNAME\$ P=10.0.0.11 MAC=00:0C:29:91:2E:5D
DHCP:subtype=0:Single:\$IGNORE_N\$ DHCP_RenewLease: Host=\$HOSTNAME\$ P=10.0.0.11 MAC=00:0C:29:91:2E:5D

マッピング削除本文メッセージ

次の表では、パーサーが認識するさまざまな Lucent QIP 本文メッセージについて説明します。

これらのメッセージの正規表現構造を次に示します。

Delete Lease:|DHCP Auto Release:

受信された本文が解析され、次のようにユーザの詳細が判明します。

[10.0.0.11]

本文メッセージ
DHCP:subtype=0:Single:\$IGNORE_N\$ Delete Lease: IP=10.0.0.11 \$IGNORE_N\$
DHCP:subtype=0:Single:\$IGNORE_N\$ DHCP Auto Release: IP=10.0.0.11 \$IGNORE_N\$

パッシブ ID サービスのフィルタリング

特定のユーザを名前や IP アドレスに基づいてフィルタリングできます。たとえば IT サービスの管理者が、そのエンドポイントの標準ユーザを支援するためにエンドポイントにログインする場合、管理者アクティビティをフィルタリングにより除外して [ライブセッション (Live Sessions)] に表示されないようにし、そのエンドポイントの標準ユーザだけが表示されるようにできます。[ライブセッション (Live Session)] には、マッピングフィルタでフィルタリングされていないパッシブ ID サービス コンポーネントが表示されます。フィルタは必要なだけ追加できます。「OR」論理演算子をフィルタの間に適用します。両方のフィールドを 1 つのフィルタで指定する場合は、「AND」論理演算子をこれらのフィールドの間に適用します。

ステップ 1 [プロバイダー (Providers)] > [マッピングフィルタ (Mapping Filters)] を選択します。

ステップ 2 [追加 (Add)] をクリックし、フィルタするユーザのユーザ名や IP アドレスを入力して、[送信 (Submit)] をクリックします。

エンドポイントプローブ

設定可能なカスタムプロバイダーの他に、インストール完了後にデフォルトでISE-PICエンドポイントプローブが有効になります。エンドポイントプローブは、特定の各ユーザがまだシステムにログインしているかどうかを定期的にチェックします。



- (注) エンドポイントがバックグラウンドで実行されることを確認するには、まず最初の Active Directory 参加ポイントを設定し、[クレデンシャルの保存 (Store Credentials)] を選択していることを確認します。エンドポイントプローブの設定の詳細については、[エンドポイントプローブの使用 \(44 ページ\)](#) を参照してください。

エンドポイントのステータスを手動で確認するには、[アクション (Actions)] 列から [ライブセッション (Live Sessions)] に移動し、[アクションを表示 (Show Actions)] をクリックし、次の図に示すように [現在のユーザを確認 (Check current user)] を選択します。

図 2: 現在のユーザの確認

Session Status	Action	Endpoint ID	Identity
enticated	Show Actions		Administra
enticated	Show Actions		Administra
enticated	Show Actions	10.56.53.179	Administra
enticated	Show Actions	10.56.63.172	Administra
enticated	Show Actions	10.56.53.204	Administra
enticated	Show Actions	10.56.53.197	Administra

Actions ×

Clear session

Check current user

エンドポイントユーザのステータスと手動でのチェックの実行の詳細については、[ライブセッション](#)を参照してください。

エンドポイントプローブはユーザが接続していることを認識します。特定のエンドポイントのセッションが最後に更新された時点から4時間経過している場合には、ユーザがまだログインしているかどうかを確認し、次のデータを収集します。

- MAC アドレス
- オペレーティングシステムのバージョン

このチェックに基づいてプローブは次の操作を実行します。

- ユーザがまだログインしている場合、プローブは ISE-PIC を [アクティブ ユーザ (Active User)] ステータスで更新します。
- ユーザがログアウトしている場合、セッション状態は [終了 (Terminated)] に更新され、15 分経過後にユーザはセッションディレクトリから削除されます。
- ユーザと通信できない場合、たとえばファイアウォールによって通信が防止されているか、エンドポイントがシャットダウンしている場合などには、ステータスが [到達不可能 (Unreachable)] として更新され、サブスクリイバポリシーによってユーザセッションの処理方法が決定します。エンドポイントは引き続きセッションディレクトリに残ります。

エンドポイント プローブの使用

始める前に

ISE-PIC がインストールされている場合、エンドポイントプローブがデフォルトで有効になっています。プローブを有効または無効にするには、次のように設定していることを確認してください。

- エンドポイントはポート 445 とのネットワーク接続が必要です。
- ISE-PIC で、最初の Active Directory 参加ポイントを設定します。参加ポイントの詳細については、[プローブおよびプロバイダーとしての Active Directory](#) を参照してください。



(注) エンドポイントがバックグラウンドで実行するようにするため、最初に 1 番目の Active Directory 参加ポイントを設定する必要があります。これにより、Active Directory プローブが完全に設定されていない場合でもエンドポイントプローブを実行できるようになります。

ステップ 1 [プロバイダー (Providers)] > [エンドポイント プローブ (Endpoint Probes)] を選択します。

ステップ 2 [有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択します。

画面は変更されません。ただし、選択内容に基づいてプローブが有効化または無効化されます。有効化された場合、プローブはバックグラウンドで稼働しており、データを収集しています。
